

第 67 回 伊勢市都市計画審議会
議事録要旨

令和4年11月14日

第 67 回伊勢市都市計画審議会

日 時 令和 4 年 11 月 14 日（月）午前 10 時から

場 所 伊勢市役所本館 3 階委員会室

委員出席者	浅野 聡	伊藤 良栄	笠原 正嗣
	富本 真理子	西井 一比古	坂谷 隆徳
	酒徳 雅明	宮崎 誠	野口 佳子
	辻 孝記	河村 幸久	竹本 訓子
	千島 孝弘	中出 睦	森井 美恵

出席幹事等 市長 鈴木 健一
副市長 福井 敏人
都市整備部長 荒木 一彦
上下水道部長 成川 誠
都市整備部次長兼監理課長 上田 淳一
都市整備部参事兼都市計画課長 中村 哲也
下水道建設課副参事兼雨水施設整備係長 岡井 孝浩

事務局 都市計画課主幹兼計画係長 青山
計画係 小長谷・橋本・長井

司会進行 事務局（都市計画課長）

傍聴人 1 名

議事録署名 野口委員、千島委員（議長指名）

【内容】

事前説明案件

- (1) 伊勢市立地適正化計画の見直し

【発言内容】

事前説明案件

○伊勢市立地適正化計画の見直し

説明

◆事務局

事前説明案件資料1の1. 前回審議会で頂いた御意見と修正内容について、資料に沿って説明。

詳細な内容については資料1を参照。

意見・質問

◆委員

さらに見直す修正案も、今申し上げてよいか。

◆会長

他の章は後ほど願います。

説明

◆事務局

事前説明案件資料1の2. 主な見直し内容（第8章・第9章）について、資料に沿って説明。

詳細な内容については資料2の第8章・第9章を参照。

意見・質問

◆委員

第8章の169ページ、交通ネットワークの充実の丸の1つ目、伊勢市地域公共交通網形成計画について、前に（改訂）伊勢市地域総合交通網計画という形で表記があったが、こちらには改訂という文言を入れなくてよいのか。

◆事務局

地域公共交通網形成計画について、3ページの表現と合わせて修正をさせていただきたい。

◆委員

17ページの高速バスの表記だが、「WILLER TRAVEL」の場合Lが抜けている。ただ、「WILLER TRAVEL」という会社名はなく、「株式会社 WILLER」の子会社とし

てバス会社「WILLER EXPRESS」がある。バス会社なら「WILLER EXPRESS」、親会社だと「株式会社 WILLER」となる。表記としておかしいため、検討をお願いしたい。

次に 26 ページの伊勢市の現況都市構造評価だが、課題として左下の高齢者徒歩圏における医療機関のある住宅の割合を指摘されているが、右上の生活サービス施設の徒歩圏の人口カバー率も同じく減少がある。同じ落ち込みのため、併記が必要だと思う。

次に 30 ページ、三重県の入込客数で伊勢市は 3 割前後を占めているという表記だが、下のグラフを見ると 4 割になると思う。年によっては 6 割を超えているため、3 割という表記は違うと思う。また、グラフの根拠として、「伊勢市の占める割合」では、県全体で占める割合というのが一読しただけではわかりにくさがあると思う。

次に 47 ページ、2 段落目に、「都市マスタープランに設定されている軸」とあるが、下の表記では「交通軸」になっているため、こちらも交通軸に揃えたほうが良いと思う。

次に 98、99 ページで、98 ページに津波浸水域、浸水深 2 メートル以上の浸水域という表記があるが、99 ページの図は洪水浸水の 3 メートル以上になっている。98 ページの表と 99 ページの図との連携がとれていないと思う。

◆事務局

17 ページについては、正しい情報を確認し、訂正させていただく。

26 ページについては、もう一つの点についても追加することで整合がとれると思うので、追加させていただく。

30 ページについては、文章と図の整合がとれるように確認させていただく。

◆会長

3 割前後という表現や、図の凡例の伊勢市の占める割合というのが明確になるように、良い表現があるか検討していただきたい。

◆事務局

47 ページについても、整合がとれるように確認し、修正したい。

◆会長

45 ページの (1) が拠点の設定になっているため、(2) は軸の形成のほうが良いと思うが、それも含めて事務局で検討をしていただきたい。

それでは、98 ページと 99 ページについて、図と説明が一致していないため、

わかりにくいのではということだが、

◆事務局

98、99 ページについてもわかりやすい表現に修正させていただきたい。

◆会長

99 ページの図も重要だが、98 ページの視点 9.1 に津波災害と書いてあるので、津波災害の図があるとわかりやすくなる。また、視点 9.2 で河川の氾濫などの表現があると、99 ページの洪水浸水の図が理解しやすいという御指摘かと思うので、理解しやすく、整合性をとれるようにしていただきたい。

◆委員

年号表記の統一を図るということは、とても良いと思う。どのように統一するかは、元号が主体で、わかりにくいところは西暦表記という理解でよろしいか。元号をリスペクトすべきだとは思いますが、その上で、元号と西暦を併記したほうが、より市民の方にはわかりやすいと思う。

◆事務局

元号を基本として表記し、1 ページの中で2つ以上の元号が出てくるときに、西暦表記があるとわかりやすい場合は西暦も併記した。

◆委員

そのように統一されているのであればよいと思う。

◆会長

2つの年号表記を両方書くと煩雑になるため、できるだけ簡略しながら重要なところは併記して、内容が理解しやすいようにできれば良いと思う。

◆委員

6 ページの人口の動向で、平成 17 年に市町村合併があるので、この 135,000 人というのは合計だと思うが、それ以前は市町村を合計した数値と理解して良いか。もしそうであれば、説明を加えたほうが良いと思った。

また、173 ページの 9-2 だが、アンケートをどのように行ったのかという質問が1つと、居住誘導区域内の小学校区に住む 10 歳代から 30 歳代の方がこの数値だと思うが、総数がどれぐらいで、その中の 160 人の回答だとしたら標本数として少ないと思う。過去のことなので基準値をそこに持っていくことは致し

方ないと思うが、その回答の仕方によっては全体的な民意を集めにくいと思った。

◆事務局

人口については、合併前の数字を足している。それが分かるよう、表現を修正したい。

173 ページの市民アンケートについては、伊勢市で実施している市民アンケートにより、市民 3,000 名程度にアンケートをとり、抽出したものになる。この人口規模に対し、このくらいの数字があると大体傾向が分かるという数字を抽出しているため、この数字で概ね傾向がつかめると考えている。

◆委員

アンケートの方法を教えてほしい。

◆事務局

別の部署が実施しており、無作為抽出で、郵送でアンケートを届ける。紙で答える方もいれば、今年は電子申請で答えることもできる。

◆会長

市民アンケートの出典を書いておいたほうが良いと思う。

◆委員

いつアンケートを実施したかも、加えておいたほうが良いと思う。

◆会長

「何年度市民アンケート調査結果より」というように出典を書き、それをたどれば元データがわかるというように表現を工夫していただきたい。

◆事務局

御提案いただいた出典と年度を加えて、わかりやすい表現にしたいと思う。

◆委員

85 ページの防災に関して、この区域とは、一般居住区域も含め全体か、居住誘導区域に限定してハザード関係を考えていくのか。それによって表現が変わってくるので、考え方をまず確認したい。

◆事務局

基本的には全体で考える中で、「①災害リスクを回避する」と書いてあるが、そこで安全なエリアに居住誘導をするというのが前提で、さらにハード整備とソフト整備をしていくという考えである。全体ではあるが、特に居住誘導区域についての防災施策ということになる。

◆委員

それでは、居住誘導区域が対象ということでよいか。

◆事務局

はい。

◆委員

表現が難しく、まず、全体に災害リスクの高いエリアとその他のエリアがあり、災害リスクの高いエリアを今回の見直しで誘導区域から外すという考え方だと思う。そうすると、外すのと、ハード又はソフトで低減するというのが、どこの地域にあたるのか。災害リスクを回避する、安全な地域に誘導するために災害リスクの高いエリアを外すとすると、外された地域については、一般居住区域としてハード又はソフトを考えるのか、居住誘導区域の中で考えるのか。どちらに設定するのかによって、この表現が少し違ってくるのではないかと思う。

◆事務局

まず、災害リスクを回避するというところで、今回は前回設定した誘導区域を見直すために作っているのだから、基本的には誘導区域の修正ということになる。その中でメインとなるハード施策は、その区域で効果が高いと考えるものを伊勢市全体の中から抽出して表記した。

◆委員

そうすると、誘導区域を対象にするということで、災害リスクの低い地域はハードやソフトで対応する、高い地域は外すということで良いか。

危険性が高い地域として誘導区域から外したところは一般区域ということで、防災対策は、今回の話とは別という捉え方で良いか。

◆事務局

誘導区域から外すと一般区域という形に変わるが、ハード施策を何もしないというわけではない。伊勢市全域のハード施策の中で、この区域で取り扱ってい

るものを、86 ページのハード整備に表記したということで御理解いただきたい。

◆委員

ということは、やはり対象は全地域ということか。誘導区域のみを考えるというのではなく、ある程度そのような表現が必要ではないか。少しわかりにくい表現だと思うので、解決してはどうか。

◆会長

都市計画マスタープランだと、市全域で防災についてもきちんと書いてある。立地適正化計画は、その中でさらに居住誘導区域、都市機能誘導区域を設定し、そこに特化して、都市マスタープランを高度化したものとして作るものなので、基本的にはこの内容で良いと思う。特にハード面に関して、例えば河川整備は広域にわたる整備なので、市全域で長年にわたり立てられている対策を引き継いでいく。それにソフト施策を重ねていくというのが、多くのところで共通してやっている。

◆委員

立地適正化計画に防災指針を入れなさいということで、今回この話になっているわけだが、その中で、ソフト・ハードの面というのは、伊勢市全体の防災計画の中で考える部分だと思う。今回は災害リスクの高い地域を居住誘導区域から外して、安心安全な地域に設定するということが、本来の立地適正化計画ではないか。防災計画ではないので、今の話だと少し疑問に思う。

◆会長

防災は直ちに改善が出来ない。都市マスタープランも長期的な計画で、それと連動させながら立地適正化計画を作っている。おっしゃるとおり、まずは市全域の防災対策がベースとしてあり、その中で、ゾーニングに関してはさらに都市マスタープランやハザードマップなどと整合性をとりながら、より安全なところに誘導するような施策を作るというのが、この法の趣旨であり、その趣旨に則ってやっている。30年、40年経つと、ハード整備とソフト整備が充実して追いついてくるのではないかと思う。現時点のハード施策、ソフト施策は、以前から計画されている河川整備などをベースにして整合性をとると感じると思う。

他の自治体の防災指針でも、ソフト対策に力を入れている。近年の集中豪雨などで、河川の氾濫や津波が来ることを危惧しているが、直ちに河川改修や防潮堤整備をするのは難しいため、中長期的な河川整備や海岸整備をベースとしながら、比較的短期間にできるソフト整備や避難誘導の在り方などを、多くの自治体

が力を入れているというのが現状だと思う。

繰り返し見直し、少しずつ成果を上げていくことで、やがてハード整備とソフト整備が居住誘導区域や都市機能誘導区域で効いてくるようになると良いと思っている。

今の委員の意見は、「ここに書いてあるハード整備は、居住誘導区域に特化したものではなく、市全域で以前から中長期的に進められている整備計画である。これらの整備により、居住誘導区域、都市機能誘導区域の河川対策などにも効いてくると思われる。一方、ソフトに関しては、ゾーニングを限定して比較的短期間に取り組みやすい政策であることから、地域住民の方の理解を得ながら、比較的短期的にできるかもしれない。」ただ、そう説明を書くと大変煩雑になるので、省略して書いているのだと思うが、いかがか。

◆委員

防災施策は、当然全地域でやっていかなければならないことで、それは伊勢市の防災計画でしっかりやってもらう。今回は、居住誘導区域の災害リスクの高いエリアをもう一度見直しましょうというのが本来の趣旨と理解して、こんなにしなくてもよいのではないかという意味合いで言わせてもらった。会長の言われることは当然必要なことだが、そこは防災計画のほうでしっかりやってもらい、あくまで今回は立地適正化計画の区域を設定する材料として防災施策を入れたと理解しているが、違うか。

◆会長

具体的な表現の提案はあるか。

◆委員

第7章につながる、災害リスクを回避するということが1番大きい話なので、ここをもう少し強調すれば良いのではないかと思う。

もう1点、53ページの災害リスクの分析の視点と、135ページの居住誘導区域の設定の視点について、章は違うが、視点1、視点4など、同じように使っている。そのため、全然違う視点だが、何かリンクしているように感じてしまうので、「視点」を「観点」とするなど、違う表現を考えられたほうが良いと思う。

◆事務局

49ページに、防災指針の検討の流れを示している。真ん中の災害リスクの分析というところで、「現行の居住誘導区域において」とあるとおり、以前つくった居住誘導区域の中を対象にしている。そのエリアについて、災害リスク、ハザー

ドを重ね合わせて、危険な箇所を排除した。その後、それに対応する防災に関する施策等を考えていったということを、このページで表現しているの、御理解いただきたい。

「視点」については、各章の中で考え方を「視点」という表現に統一した。わかりにくいという御意見でしたが、事務局としては、この表現で御理解いただけたらと考えている。

◆委員

最初は前文に書いてあるということで、そこから外れた部分はどのような扱いをされるのか。災害リスクの高いエリア以外のその他のエリアは、リスクが少ないという考え方でよいのか。リスクが少ないエリアについてはハードやソフトで対応して、リスクが高いエリアについては居住誘導地域から外し、外したエリアについてどのようにするか、表現をしていただきたい。

視点については考え方だが、よく使われているので少し気になった。

◆事務局

居住誘導区域に災害リスクの高いエリアを含まないように見直して、立地適正化計画を市民の皆さんにこのエリアは災害リスクが高いことを認識してもらうことが、まず災害対策の一つと考えている。周知をしっかり行い、このエリアについての災害リスクを市民の方に訴えていきたいと考えている。

◆委員

第9章の目標値の設定の部分で、これまで子育て支援センターの利用者数としていたのをアンケートに改めたということだが、このアンケートの基準値は平成29年時点に遡ってその年度のアンケートを計算しここに書いているのか。

防災に関する目標値は、新しく設定して基準値が令和4年で始まり、目標年次は令和15年ということで、5年おきに計画も見直して、その時々状況を見据えてさらなる目標や施策を考えていくというものだと思う。平成29年とか平成27年の基準値から、見直し時点の数値も表すことでこの先どのように修正したら良いか計画できるのではないかと思ったが、それは可能か。

◆事務局

市民アンケートの数値は出せるので、御提示させていただく。

◆委員

都市機能誘導施設などを新しくつくる時、行為に着手する30日前までに届

出や休止廃止の届出をするということになっているがこれは都市計画課に対してするのか。

◆事務局

都市計画課に提出していただく。

◆委員

例えば大きい施設だと連絡はスムーズにいくと思うが、診療所などを新しく設置するときや閉鎖をするとき、どこまで周知されているのか。届出が今までどのように受け付けられていて、例えば、平成27年からの届出数と、現在の数を照合すれば、計画自体が生かされているかがわかるし、今後、より周知をしなければいけないとか、届出なので、少し気にかかる。

◆事務局

届出について、知らなくて出していない人もいるのではないかという御心配かと思う。都市計画課に御相談や、他に届出するものがあつた際に、あわせて届出が必要だとお話させていただき、提出はいただいていると考えている。

◆委員

現時点での数値をしっかりとつかんでいただきたいと思う。

◆委員

新しい工場を誘致するとか新規の工業団地の計画など、伊勢市から出ていく人の話を聞くと、働く場所がないなどが主な原因になっていると思う。人口が減少していくことを理解はするが、それに対する考え方などを聞きたい。

◆会長

立地適正化計画というより、総合計画や、市全体の政策に関わることかと思う。

◆事務局

立地適正化計画は、人口が減少していく中で、持続可能な都市経営ができるよいうという計画で、皆様に安全なエリアをお示しし、伊勢市の人口が増えたり、工場の誘致等についても災害のリスクをお示ししている。御質問については課題として認識しているので、この計画をしっかりと周知していく中で都市経営を進めていけるように頑張っていきたい。

◆委員

なぜそういう話をするかという、半導体関係の話が国から出ているが、伊勢市としてもそういった誘致に手を挙げないと、タイミングを逸すると他所にとられてしまうということもあるので、できる限り手を挙げていただけたらいいと思ったので、お願いしたい。

◆市長

伊勢市内で半導体に関する企業という、村田機械さんが半導体搬送装置の製造をしていただいております、下野工場団地に来ていただくことになった。その後この5年間程で、雇員人数も倍近く増えているということで、我々も国のメニューも活用いただき、少しでも設備投資等も行っていただくように、支援させていただいている。

◆委員

167 ページの表記について、再開発ビルB地区の工事は終わっているため、正しい表記はどうするのか。再開発ビルC地区はこれから解体等工事が始まるが、伊勢市駅前B地区再開発ビルは竣工済みであり「MiraISE」という名称がついている。立地適正化計画として、どの表記が正しいのか。

◆事務局

御指摘のB地区のビルの件については事業名のため、このままの表現で進めていきたいと考えている。

◆委員

これから何年も計画書として出てくるため、市民に対し共通して認識しやすい表現が少し気になったのだが、その方針でということであればよい。

◆会長

他に何か御意見はあるか。

◆委員

<意見なし>

◆会長

続いて、これまでの経緯と今後の予定について、事務局から説明をお願いします。

説明

◆事務局

事前説明案件資料1の3. これまでの経過と今後の予定について、資料に沿って説明。

詳細な内容については資料1を参照。

意見・質問

◆会長

何か御質問はあるか。

◆委員

<意見なし>

◆会長

今後パブリックコメントを実施し、次回の第68回都市計画審議会で答申したいと思う。

今回事前説明3回目で、幾つかの章に分けて説明し、一通り立地適正化計画の全体についての御意見をいただきました。本日いただいた御意見を踏まえて、パブリックコメントを実施し、次回の第68回都市計画審議会で答申ということでまとめていきたいと思うので、引き続き御審議をお願いします。

本日の案件は以上だが、何か全体を通じて御意見はあるか。

◆委員

<意見なし>

◆会長

以上をもって、第67回伊勢市都市計画審議会を閉会する。

<閉会>